



校報 南都田

ホームページでは、「校報 南都田」をカラーでご覧いただけます


令和6年3月18日

第15号

発行者：校長 佐藤 斉

奥州市立南都田小学校

TEL 46-3130 FAX 46-2937

学校HP [南都田小学校](#) 

修了・卒業 おめでとうございます

3月18日（月）、1～5年生は令和5年度「修了の日」を迎えました。

子ども達一人一人の座っている姿、立つ姿、返事の声…、全てに1年間で培った自信が見え、修了証を受け取る子どもたちの顔は、どの子も成就感いっぱいの満足した表情でした。日々の学習や生活、そして様々な行事をとおして、確かな自信を得たように思います。子ども達には、成長の陰にある、かかわった方々に対する感謝の気持ちをもち続けてほしいと願います。

令和5年度は、アフターコロナの中で、昨年度までとは違う、新しい生活様式を作りながら、一人一人が精一杯学校生活を送り、学習・生活とも充実した1年間を過ごすことができました。

令和5年度も明日3月19日（火）の卒業証書授与式を残すのみとなりました。

この1年間、保護者の皆様、地域の皆様の多大なご協力と温かい見守りをいただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

「残心」 ～進学・進級に向けて～

修了式で、今の学年を終えるにあたってと、新しい学年に向けての心構えをつくろうと、「残心」ということについて、お話をしました。

残心（ざんしん）は、字の通り「心」を「残す」という、一つの動作を終えたあとでも心が途切れないという意味で、日本に昔から伝わり、大事にしている考え方です。日本で昔から行われてきた「武道」「芸道」「茶道」「華道」などで使われている言葉です。剣道では、相手に打ち込んで一本とって勝ちになっても、しばらく緊張感を解かずにその構えをしたまま備えることです。茶道では、お客が帰ったとたん大声で話し始めたり、急いでさっさと片付け始めたりするのではなく、帰っていくお客が見えなくなるまで、ずっと見送ります。その後、一人で静かに茶室に戻って茶をたてて、今日のお客とのことを思い出すということです。やり終えたあと、すぐに気持ちを終わらせてしまうのではなく、取り組んでいた時の一生懸命の「心」をしばらく「残」すのです。

みなさんも、今年度の勉強は今日で終わりますが、「今年一年がやっと終わった」という気持ちで終わりにしてしまうのではなく、頑張ってきた「心」を残して、今年一年を振り返りかえてみてほしいと思います。（中略）～春休みには、今年一年間に使用した学用品の整理が出来るとよいと思います。自分が使った学用品にも心を寄せ、修理したり、不足したものを補充したりしてください。学用品など一年間使ってきた身の回りのものへ心を寄せることは、進学・進級への心構えにつながります。日本で昔からずっと大切にしてきた考え「残心」、みなさんも大切にしてほしいと思います。

3月19日から4月4日まで春休みとなります。水や火、自転車、車等の事故に気を付け、感染症の対策も行いながら健康にお過ごしください。

1年間のたくさんのご支援・お力添えに心から感謝申し上げます。